



# 北総モラルアップ通信

～チーム北総 思いを伝え合い認め合う職場づくりのために～

今年も、北総教育事務所では、不祥事の根絶や職場環境改善の手立てとして、『北総モラルアップ通信』を発行します。個人で、そして組織で、不祥事を起こさない・起こさせない環境づくりや、様々な研修方法等を発信していきます。

感染症の拡大を防止するために、そして、子供たちを笑顔で迎えるために、こんな時だからこそ、チーム学校でモラルをアップしていきましょう。

## 今月のテーマ「サービスの厳正と、不祥事の根絶」

**チーム北総5S+1 Sample: 他の模範となるよう手本を示す。**

令和2年度が始まりました。本来であれば、教室やグラウンドに子供たちの元気な明るい声が響き渡り、私たちもこの声に喜びを感じながら、新学期を迎えているはずでした。

ところが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度の3月から始まった臨時休校が春休みをまたいで継続しています。先生方には、本当に残念な思いでお越しのことと推察します。

一方で、千葉県教育委員会には、県民の皆様から次のようなご意見が寄せられています。

休校中にやることがないのか、体育館でバレーボール等をしている。

『子供が登校しないので仕事がない』と話す先生がいた。

休校中の課題が酒配付されたが、その後、一度も連絡がない。



また、SNSやラジオ番組に教員のつぶやきや投稿なども見受けられます。それも勤務時間中に、です。これを読んでいる皆さん、どう思いますか？勤務の厳正が保たれているとはとても言えません。

さらに、4月15日の県の定例教育委員会会議で、懲戒処分事案が4件も上がりました。内容はすでにご存じかと思いますが、いずれも自校の生徒に対するわいせつ行為です。

どちらの行為にも言えることは、SNSの不適切な利用です。SNSは、あまりにも身近で日常的に利用している人が多く、生活の一部となってしまう人もいます。その結果、SNSが抱える多くのリスクに対する認識の甘さが、このような行為を助長しています。

私たち教職員は、このような時だからこそ、今まで以上に伝える言葉や見せる態度、そして行動が県民の信頼に応えるものでなければなりません。

「サービスの厳正」と「不祥事の根絶」について全職員で再確認し、「安全」、「安心」、そして「信頼される学校」として、子供たちを迎え入れてください。

### ☆コンゼツ・ノ・ヒント☆

新型コロナウイルス感染症対策に関し、ドイツのメルケル首相が、国民に呼びかけたテレビ演説の一部を紹介します。今、私たちが参考にしなければならない心構えではないでしょうか？

本当に全ての市民の皆さんが、ご自身の課題と捉えてくだされば、この課題は必ずや克服できると私は固く信じています。

ですから申し上げます。事態は深刻です。皆さんも深刻に捉えていただきたい。ドイツ統一、いや、第二次世界大戦以来、我が国における社会全体の結束した行動が、ここまで試された試練はありませんでした。(中略)

私たちの活力の源は強制ではなく、知識の共有と参加です。現在直面しているのは、まさに歴史的課題であり、結束してはじめて乗り越えていけるのです。私たちはこの危機を克服していくと、私は全く疑っていません。

ただ、犠牲者数はどれほど増えるでしょうか？私たちは大切な人を何人、失うことになるでしょうか？  
(→裏面に続く)

このことは相当程度、私たち自身の行動にかかっています。今こそ、固い決意のもと、皆でともに行動するときです。制約を受け入れ、互いに助けあうのです。

現状は深刻ですが、この先はいろいろな展開があり得ます。

ということは、一人ひとりがどれだけ自制してルールを守り、実行するかが、全てではないにせよ、今後の展開を決める一つの要素なのです。

かつて経験したことのない事態ではありますが、私たちは、思いやりと理性を持って行動し、命を救っていくことを示していかなければなりません。例外なく全ての人、私たち一人ひとりが試されているのです。

(出典：ドイツ連邦共和国大使館・総領事館HPから一部引用)

## 不祥事を起こさない職場づくりのために…Let'sCheck!

	項 目	○
不祥事全般	教職員には、高い倫理観が求められると考え、コンプライアンス（法令遵守）の徹底に努めている。	
	不祥事は、いつでも、どこでも、誰にでも起こるものとして、当事者意識を持つように努めている。	
	「懲戒処分の指針」の内容について知っている。	
	自校で不祥事が起きれば、不祥事に対する事後処理や、児童生徒や保護者への対応など、本来業務に使うべき多くの労力と時間をつきだまなければならないことを理解している。	
	教職員相互が言動について指摘し合える「風通しがよく、働きやすい、働きがいのある」職場環境づくりや人間関係づくりの推進に努めている。	
	同僚の児童生徒に対する指導等について互に関心を高め、無関心な態度をとらないよう心がけている。	
	同僚の言動等に何らかの危機的な兆候を把握した場合には、管理職や他の同僚と一緒に状況を確認している。	
	親しさの表現や無意識の言動であったとしても、相手が不快に感じれば、セクハラにあたることを理解している。	
わいせつ・セクハラ	児童生徒を指導する際、児童生徒の頭、肩、腕など身体への接触を避けるとともに、極力1対1にならないようにしている。	
	宿泊を伴う行事では、児童生徒の見回りを複数で行うなどして、児童生徒を不要に自室に入れたりしないようにしている。	
	児童生徒とは、私的な理由による電話や電子メール、SNS等のやりとりをしないようにしている。	
	児童生徒を自宅に招いたり、必要がないのに自家用車に乗せたりしないようにしている。	
	自分の発言に、児童生徒を不快にさせる性的な言葉が含まれていないか、常に気をつけている。	
情報モラル	自分の投稿や発言は、私的な発言であっても、教職員の発言として受け取られることを理解している。	
	匿名や公開範囲を限定した投稿であっても、個人が特定されたり、拡散されたりする可能性があることを理解している。	
	一度投稿した発言や画像は、完全に削除することができないことを理解している。	
	守秘義務に違反する投稿をしていない。	
	勤務時間中にSNS等の私的な利用をしていない。	
	同僚が特定の生徒との私的なやりとりをしていることに気づいたら、その場で注意するとともに、管理職に相談するようにしている。	

**Sample,Service,Simple,Speed,Speciality… + 1**